

海外安全対策情報（２０２１年１月～３月：コロンビア）

１ 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

（１）全般

ボゴタ市、メデジン市、カリ市等の都市部を含め、窃盗・強盗の一般犯罪被害が昼夜を問わず多発している。比較的治安が良いとされる地域でも、飲食店内の置き引き、バイク利用強盗、夜間の路上強盗等の発生が見られる。また、SNSを通じて知り合いになり、飲食店や自宅等で飲食をする機会に乗じて、飲食物に睡眠薬を混入させて意識を失わせる睡眠薬強盗被害や、警察官に成りすまして職務質問を装い金品をだまし取る等、様々な手口の犯罪が見られる。

２０２０年３月以降の新型コロナウイルス感染拡大に伴う外出制限措置の影響で、一時的に犯罪統計の減少が見られたが、外出制限緩和以降、犯罪件数が再度増加する等、大きな治安改善は認められない。

被害に遭わないためには、人気のない道路は日中でも注意する、身の回りの物から目を離さない、怪しい人物に狙われていないか注意する等、常に警戒を怠らない心構えが必要である。万が一、強盗に遭った場合は生命を第一に考え、絶対に抵抗してはいけない。

（２）邦人犯罪被害事案

- ・ ２月９日午前４時ころ、メデジン市内路上を単独で歩いていたところ、男に刃物を突き付けられ金品を奪われた。
- ・ ２月１８日午後３時ころ、カリ市内路上において、男からけん銃を突き付けられ、所持していたスマートフォンを奪われた。

２ テロ・爆弾事件発生状況・関連報道

ＥＬＮ、ＦＡＲＣ離反兵等の反政府武装組織の活動が活発な地域で、治安当局やインフラ施設に対するテロ事件が発生している。ボゴタ市では２０１７年６月、ショッピングセンター「アンディーノ」においてフランス人女性を含む３名が死亡する無差別テロ事件が発生しているほか、２０１９年１月にも市内の警察学校内でＥＬＮによる自動車爆弾テロで学生２２名が死亡するなど、今後もテロへの警戒は必要である。

- ・ １月７日、カウカ県プエルト・テハダ市で手りゅう弾爆発により１名死亡、８名負傷。
- ・ １月１３日、アトランティコ県 balan キージャ市で手りゅう弾爆発により１名死亡、１４名負傷。実行犯の犯罪組織メンバーが逮捕された。
- ・ ２月８日、カウカ県グアピ市で太平洋岸を運航中のボートを標的に射撃し、市民１名死亡、３名負傷。
- ・ ３月１７日、カケタ県パウヒル市で国軍を狙ったＦＡＲＣ離反兵による爆発が

あり、兵士２名が死亡した。

- ・ ３月２６日、カウカ県コリント市において市庁舎を標的としたＦＡＲＣ離反兵による自動車爆弾テロにより市民を含む４３名が負傷した。

３ 誘拐・脅迫事件発生状況

ＥＬＮ等の反政府武装組織や麻薬犯罪組織が、身代金目的の誘拐、恐喝、脅迫を行い、資金源としている。都市部では犯罪組織による偽装タクシーを使用した短時間誘拐の犯行もあることから、流しのタクシー（タクシーアプリ等で呼ぶ無線タクシーではない）は利用しない等の注意が必要である。

- ・ １月末に、カウカ県を商用目的で訪問中のカナダ人・イタリア人の短期滞在者２名が誘拐され、２月２日に同県パエス市で無事に釈放された。ＦＡＲＣ離反兵グループに誘拐されたものと見られる。